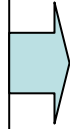


対象別の適切な食品安全情報の教材と食品安全ナビゲイター人材養成プログラムの開発に関する研究

代表：関澤 純
徳島大学総合科学部教授

問題意識

報道や消費者にとり
行政側のメッセージ
の理解に困難があり
誤解や不安の要因と
なっていないか？



具体的な狙いの例

- 1) 報道や消費者の誤解と不安要因特定と疑問を解くメッセージ作成
- 2) 対象者の関心・理解度別に疑問に答えるホームページ例の作成
- 3) 対象と目的別コミュニケーション手法開発と指導人材養成

プログラム提示

これまでの研究 : 消費者、行政、食品事業者、報道、学生ごとに調査

- 1) BSE, 輸入食品などの理解・判断と情報源依拠の関係
- 2) 輸入食品、表示偽装などで不安要因と理由の調査
- 3) 厚生労働省及び食品安全委員会ホームページの利用状況調査
- 4) 食品安全委員会の用語集解説の理解度と不明理由の調査
- 5) 欧州と日本消費者のリスク認知と食文化、食生活との関連につき
オランダWageningen大学マーケティング・消費者行動研究所との共同研究協議



今年度の予定と期待される成果

- 1) 不安要因と理由の分析から適切な教材案のテーマと内容の選定と教材案原案作成
- 2) 研修プログラム（ウェブ上の通信教育、小集会での実習など）の試行による検証
- 3) リスク認知と食生活・食文化の関連の国際比較からコミュニケーション改善の検討

食品によるバイオテロの危険性に関する研究 (主任研究者: 奈良県立医科大学 健康政策医学講座 教授 今村知明)

■ 研究の必要性

- ✓ 世界各国でのテロの危険性の高まり: 9.11、炭疽菌事件、イラク戦争、...
- ✓ 食品テロ: 効果的なテロ形態
- ✓ 国際動向: 米国、G8専門家会合、APEC等において食品テロ対策検討
- ✓ 表示偽装、中国製食品による食中毒など、人為による食品への信頼低下
- ✓ 意図的な食品汚染に対して脆弱な製造現場: 食品の製造工程は、「従業員同士の信頼関係」を前提に運営

食品テロ対策の検討が必要

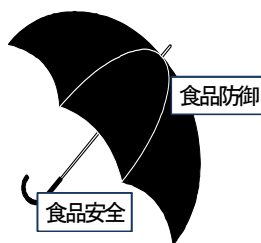
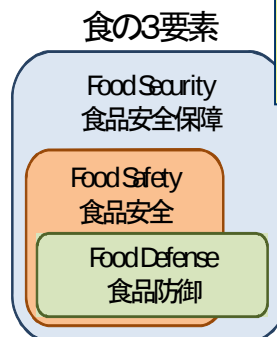
食品製造現場における人為・悪意への具体的対策が必要

■ 研究の方向性

- ✓ 「食品安全」から「食品防御」へ

[対策上の問題例※]

! 「従業員の雇用時に、身元のチェックができない」
! 「鍵を取り替えたことがない／暗証番号を変更したことがない」
! 「原料や製品の搬送において、毒劇物等と完全に分離することは難しい」
! 「納入品について、発注した数量に足りていない場合は発注先に不足の旨を確認するが、発注した数量以上に納入してきた場合は、そのまま受け取ってしまう」
※工場での聴き取り調査より



■ 主な研究目標

- ✓ 食品テロに対する脆弱箇所の把握手法開発 [事前評価]
- ✓ 効果的な食品テロ対策の検討 [未然防止]
- ✓ 食品テロ発生時の早期察知方策の検討 [被害の最小化]

■ 研究成果

- ✓ 米国FDAで用いられている評価ツール「CARVER+Shock法」の適用手法の確立(牛乳、納豆、弁当、清涼飲料水、セントラルキッチン、冷凍食品、配送センターにて試行済み)
- ✓ 食品テロ対策チェックリスト(94項目)の作成・出版

★意識啓発のため出版★



※今後、工場での食品防御対策の実行可能性の検証が必要(大規模工場/小規模向上、HACCP項目とのすり合わせ等)